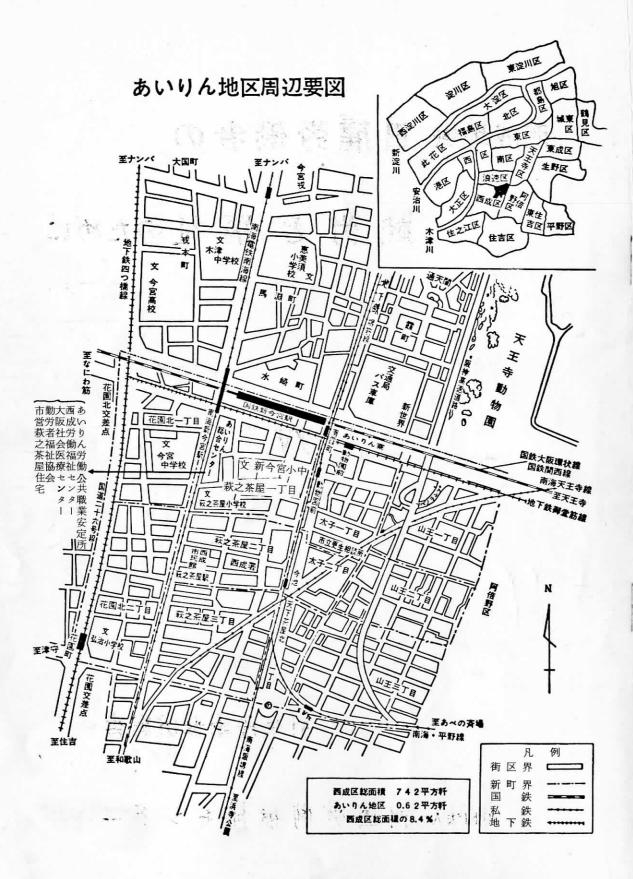
西成地域 日雇労働者の 就 労 と 福 祉のために

XV

51年度事業の報告

財団法人西成労働福祉センター



~~	~~	~~~	~>	P		<		じ	\Diamond	~~~	~~~
	-								10		
											頁
	く表	紙	裏>	あいり	ん地区	区周辺	要図				
	ごあ	いさつ		理	事	長	橘		憲		3
	1.		ん地区の	の概況							5
				沿革							5
				現況							7
	2.	就労あ	+40		(無料)	農業辺々	۲)				14
			促進事		X X X Y Y Y		,				20
	3.				カコケギタ						
	4.		労働者	の雇用の	ク以音			は伴」り			22
		事業所			•••••	1					37
	5.		談の事								
	6.	労働災	害に伴	う相談。	と休業	補償給化	寸の立	. 替貸付	の事	~	50
	7.	家庭身	上・生	活相談							62
		(寄稿) [:	松尾先生	生と短	泊」大阪	反自彊	館			
						吉	村	靱 生	E		64
	8.	医 療	相	談 …							68
	9.	日雇労	働者健	康保険	の取次	ž					70
	あい	っりん地	区(釜	ケ崎),	小史				•••••		74
)	組	織									77
}											
}											
}											
5											

で あ い さ つ

「職業の不安定な者が多数居住している特定の地域における労働者の職業の安定を図るとともに、これらの者の福祉の増進に努め、もつて労働者の生活の向上に資することを目的とする。」当財団法人西成労働福祉センターは、その寄附行為に定める目的にもあるとおり、地域労働者をして、正常な労働につかせ生活を安定させることが、環境を改善する基本施策のポイントであり、加えて、この地域における施策は、一元的な行政措置だけでは十分実効が得られず、官民一体の組織をもって、幅広くこの任にあたらしめる。という発想で昭和37年10月1日に誕生したものでございます。

昭和36年8月1日、いわゆる第1次釜ヶ崎事件が発生し、翌月の9月1日に大阪府の労働部分室が開設され、つづいて、前記の趣意と大阪府の全面助成により当センターが設立され、それから早くも15年が経過いたしました。その間、関係各位のご援助とご協力にはぐくまれながら、今日を得たことは誠に喜ばしいことであり、この機会に平素のご助力に対し厚く御礼申し上げるものでございます。

この15年を顧りみるとき、20回にも及ぶいわゆる釜ヶ崎事件がございましたが、そのうち例えば41年のそれは、一部の心ない人々による暴動と見られ、事実当時は就労状況も良く、賃金も上昇ムードで真面目に働こうとする多くの労働者には、全く関係のない出来事と判断されております。

15年の年輪を経ました今日、当センターとしましては、この地区の不特定多数の日雇労働者の就労あっせん、医療サービス、生活・労働相談等の業務に専念し、大阪産業界への労働力再生産の唯一の機関としての社会的役割を果してまいったのでありまして、概ね所期の目的が不十分ながらも、実現の方向に進められているものと信じております。

しかしながら一方、現に発生した騒ぎと、この地域の相関性を検討すると き、なお、当センターが担当する業務の面に限りましても更に周到な対策の 必要な事を痛感するものであります。 申すまでもなく社会的な諸制度は、それぞれ相当な理由があって制度化されたものであると考えますが、当センターがとっている求職労働者と求人事業所が直接話し合って雇用の成立をはかるいわゆる「相対方式」もその一つでございます。設立以来15年の今日、経済的な大きな要因をはじめ、客観的な事情の変化によりまして、最近その評価についても新聞等で論義を呼んでいるのも事実でございますが、センターといたしましても今後とも十分研究を重ねてまいりたい所存であります。

過去15年間、諸先輩の教訓を生かしつつ折角の努力を重ねて、それなり に今日の実績を挙げ得たことは、ご同慶にたえないところでありますが、こ の機会に謙虚に過去を振り返り、率直に反省もし、検討もしなければならな い問題も多々あろうかと存ずるものでありまして、進んでこれらの問題の解 決に取組むことも今日我々に課せられた重大な責務であると痛感するもので ございます。

終りに当財団の運営にあたり、府から賜わる日常の指導と監督に、さらに 治安対策に対する府警察の配意に、又医療センターをはじめとする関係各方 面の特別な配慮に深甚の謝意を表するとともに、限りない今後のご支援をお 願いしてごあいさつといたします。

昭和52年10月 1日

財団法人西成労働福祉センター 理事長 橘 憲

1. あいりん地区の概況

(1) 沿 革

「釜ヶ崎」は幾度かの騒動を経て、昭和41年8月に「あいりん地区」という呼称に統一変更された。「あいりん地区」という呼び名ももう10年の歴史をもつわけだが、全国的にはまだ「釜ヶ崎」という名の方がとおりやすい。

この地区は、その昔、なにわ江の渚がつづく「難波の名呉の浜」と呼ばれた漁村であったと云われている。「釜ヶ崎」という名も、「塩焼釜のある岬」が転じて「釜ヶ崎」となったという説と、岬の地形が鎌の形をしていて、「釜ヶ崎」となったという説があって、いずれも海浜と関係がある。

古来の交通路であった紀州街道は浜海道とも云われ、沿道に小部落が点在し、釜ヶ崎もその一つであった。

江戸時代に入ると、畑場八ヶ村と呼ばれる有名なそ菜地帯の一つであった 今宮村の一部をなし、のどかな農村として明治中期頃まで続いた。しかし、 明治も後半になると、日本経済の成長発展と共に農村から都市への人口 の吸収・集中が進み、大阪市も商工業都市として栄えた。一方、都市下層労 働者の産出もすゝみ、市街地周辺にはスラムの形成をみるに至った。大阪市 南端の名護町(長町)のスラムはその典形であった。名護町(現在の浪速区 日本橋3~5丁目)は、江戸時代から貧困者のふきだまりとして、不良環境 地区を形成していたところである。

ところが、明治36年に第5回内国勧業博覧会を大阪の今の天王寺公園・新世界一帯で開催することになり、堺筋道路の拡張とともに博覧会会場に通じる沿道の名護町は体裁が悪いという理由で、これを取払うため、明治31年に大阪府は宿屋取締規則を定めて、「木賃宿は、大阪市・堺市において営業を許さず」とした。こうして名護町のスラムは、必然的に南へ移り、木賃宿や貧困者は関西線を越えて紀州街道沿いの入船地区(釜ヶ崎の中心部)に追われていった。明治35年頃迄は、旅人相手の八軒長屋、後には下層労働者用の宿・長屋がひっそりと存在していたにすぎない釜ヶ崎も、これを契機

にスラムとしての膨張を始めたのである。

日露戦争、第一次世界大戦を経る中で、当然のことながら景気・不景気を繰り返し、失業者・貧困者が大量に創出されていった。前述した博覧会会場跡には新世界歓楽街が生れ、大正7年には、飛田遊廓が開かれた。また南海電鉄の本線と阪堺線が敷設拡張される等々といった状況の中で、釜ヶ崎は膨張し、大正末期には全国各地から追われ没落していった人々を沈澱させた本格的なスラムを形成するに至った。

大正7年、富山県の糸魚川で勃発した米騒動は、全国に波及したが、大阪で最初の米騒動は釜ヶ崎の木賃宿45軒の労働者2,700人をはじめとする 今宮町住民の蜂起によって起ったことからもうかがえる様に、釜ヶ崎はすで に日本資本主義発展途上の矛盾を大きく内包していたのである。

昭和初期の世界的恐慌を経て、釜ヶ崎にはざらに貧困者群が堆積し、ある時には低賃金労働力の供給源として、またあるときは老廃した労働力の廃棄場所として、そのミゼラブルな歴史を形成していったのである。

第2次世界大戦中は、失業者も釜ヶ崎から姿を消し、老人、子供などの非 戦斗員を残して戦争の過中に巻きこまれ、大阪大空襲により地域の大半は灰 燼と帰した。

戦后は、戦災の復興を始めとして、朝鮮戦争。ベトナム戦争の特需、臨海 工業地帯の造成、万国博、列島改造と、産業界における日雇労働者、社外工 。下請工の需要は高まり、地区はその供給源として規模をさらに大きくして、 スラムから日雇労働者の巨大な街へと変ぼりしていったのである。

(Ⅱ) 現 況

(1) 区 連

現在のあいりん地区は、大阪市西成区の東北端、国鉄環状線と、南海本線、南海天王寺線とに区切られるデルタ地帯を中心にした11町丁、花園北一丁目(一部)、二丁目(一部)、萩之茶屋一丁目、二丁目、三丁目(一部)、太子一丁目、二丁目、天下茶屋北一丁目(一部)、山王町一丁目、二丁目、三丁目(一部)とされている。それまでなじみの深かった入船、海道、甲岸、曳船などの町名は、昭和48年の住居表示変更で、その姿を消した。

地区の面積は0.62平方キロで西成区域(7.42 Km²)の約8.4%、面積的には狭い地域となっている。

地区の人口は、住民登録、未登録を含めて約4万2千人と推計されている。昭和50年の国勢調査では、大阪市の集計で地区人口は、23,217名としている。これには流動激しいドヤ人口(簡易宿泊所宿泊者)はほとんど含んでいない。大阪市の人口密度が、昭和50年国勢調査時で13,484人/Km²であり、一方、僅か0.62Km²のこの地域に4万2千人もの人々が住んでおり、この地区の過密の激しさを物語っている。

(4) 環 境

地区は、大阪の南の玄関ロ天王寺の西隣りにあって、国鉄。私鉄・地下 鉄が交錯するとともに南北は国道26号線、東西は市道尼崎ー平野線が境 界をなし高速道路阿倍野ランプなどもある、交通至便の地となっている。 地区の北側に国鉄及び南海本線の新今宮駅、地下鉄御堂筋・堺筋線の動物 園前駅があり地区への入口となっている。

通天閣やジャンジャン横丁のある新世界の歓楽街や、旧飛田新地にも隣接している。

地区は、真中を南北に縦断している南海電鉄阪堺線によって、東の山王

地区、西の萩之茶屋地区とに二分されている。山王地区は旧飛田遊廓に接して、府下でも暴力、売春、覚せい剤事犯の最も多い地域とされている。一方、萩之茶屋地区は、旧住吉街道(釜ヶ崎銀座)を中心に、簡易宿泊所(ドヤ)が集中しており、多数の日雇労働者がここを生活の拠点としている。したがって、労働者の食生活と一体になっている飲食店をはじめ、喫茶店、酒屋、パチンコ店、古物商などの各種営業もこの萩之茶屋地区に集中している。なお、西成労働福祉センター、あいりん労働公共職業安定所、大阪社会医療センター、市営萩之茶屋住宅などを含む総合施設「あいりん労働福祉センター」をはじめ、西成警察署、新今宮小・中学校、西成市民館などの公共施設も、この萩之茶屋地区にある。

(5) 簡易宿泊所

通称ドヤと云われている簡易宿泊所は、この地区内に199軒の多くを 数えている。そのうちの約70%が前述の荻之屋地区に集中している。

ドヤの収容能力は総数 2 0,3 0 7 人に及んでいるが、宿泊料が日払いであるために宿泊者はきわめて流動的で、不況時には 6 割近くまで落ちこむ一方、好況時や、盆・暮れの地区への「里帰り」現象時には、満員の状態となる。西成警察署が調べた昭和 5 1 年中のドヤの宿泊状況(率)は月平均7 4 %である。これは不況のドン底であった昭和 5 0 年の 6 5 %に並べると一割近くの増であり特に 8 月は 9 1 %の宿泊率を示している。宿泊者の 9 6 %が男で、その 9 割近くまでが日雇労働者である。

万博景気・列島改造景気で労働者が街にあふれた頃、ドヤの新。改築がすすみ、それまでの木造2階建にかわって、現在では87軒が鉄筋化、その中49軒が5~8階の高層ビルとなり、冷房・エレベータ付、宿泊人員400~500人といった大型のものまであらわれている。名前も、これまでの古風な元録、浦島、音羽などから、ホテルブラザ、ホテルロイヤルなど、一見錯覚を起しそうなものも出現している。しかし、その構造は、「蚕棚」や「追い込み」が姿を消して、大半が個室(小間)化していった

ものの、1~2畳のものがほとんどで、中には非常口、非常階段等の設備が不備であったり、通風・採光の悪いのもあって、生活の場としてはまだまだ多くの問題をかかえている。

ドャ代(宿泊料金)は、箱型最低160円から、一般旅館並みの最高 3,500円までにわたっているが、平均的に多いのは500円前后となっ ている。日払いとしては安くみえても、僅か1~2畳の空間が月にすると 15,000円ということになり、きわめて高い住居費を払っていると云える。

(6) 飲食店等

前述の簡易宿泊所には、給食の設備もなく、いわば素泊りの施設であるだけに、ドヤ居住者の食生活を支える各種飲食店はこの地区内に564軒の多きを数えている。この中、食堂が147軒、喫茶店が123軒、立呑み屋が106軒となっており、現金払い、諸物価の高騰という二重のせめ苦の中で、地区労働者はその労働力の再生産を日々、これらの店々でおこなっているのである。しかし、48年に端を発した不況の深まりの中で、地区労働者の生活は一段ときびしくなり、食生活のきりつめに、これらの店にも直接響いて、50年当時にくらべると、食堂で20店、酒屋で24店、立呑屋で17店の減少をみている。

	各	種	営		業						(昭和	5 1 年末	現在
宿泊施設	区分	種別	総	数		簡易宿	所	日払アパ		一般ア	バート	旅	館
	数			509		199		36		243			3 1
	収容能力			2 8,6 1 6		2 0,8 0 7		1,991		5608		710	
飲食店	業種別	総	数	立飲 み屋	酒販売業	食堂	移動飲食店	ホルモ ン 店	喫茶/	ますし屋	お好焼屋	中華	スナック
	数(軒)		64	106	28	147	20	19	123	18	29	20	54
防犯	業種別	Г	総		1	質店		古物商		金属くず商		露店	
防犯営業	数(軒)	398		398	19			277		9		98	
風俗営業	業種別	*	総数		カフェ	フェー 小カフェ		料理店 /		料理店ノチンコ		店麻雀店	
	数(軒)		62		5		2	1		24	1	2	18

西成警察署調べ。

(7) 地区労働者の実態

あいりん地区の推定人口4万2千人の中、約18,000人が日雇労働者とみられ、東京の山谷、横浜の寿町以上の規模を有するわが国最大の日雇労働市場を形成している。地区が労働者の街といわれる所以はここにあり、地区住民の半数を占める日雇労働者を中心に、この街は動いていると云ってよい。労働者の人口は、好況・不況、季節によっても変動があり、2~3割の増減をみる。

[就労形態]

地区労働者の就労形態は、大きく4つに分けられる。

第1のグループは、あいりん労働公共職業安定所および、大阪港労働公共職業安定所に登録して、安定所の紹介で就労するグループで、失対登録労働者102名、民間登録者270名、港湾労働者145名の合計517名がこの地区から就労している。しかし、失対登録、港湾登録者の職業転換によって、このように小さくなってきたこのグループも、かっては、2,000名をこえていたのである。ちなみに、昭和38年度には3,676名も居た失対登録者も51年度には636名、民間登録者は38年度863名が昭和51年度1,208名と増加をみせているものの、港湾登録者は41年度の2,638名から364名と大巾な減少となっている。

第 ■ のグルーブは、センター寄場外から就労するグループで、阪堺線の 南霞町駅前や、市道尼平線上、ドヤの玄関前などに集まって、親方や仲間 と待合せて就労する職人グループ約3,000~4,000人と推定される。

第Ⅳのグループは、常用的に定まった事業所へ直行就労するグループで、

建設業も含むが主として運輸・製造業関係に下請・社外工として働いているのが多い。第2グループとの重複をはずすと、約3,500人とみられる。以上の4つのグループのほかに、これらのグループから一時的にはずれている人達、労働災害による休業加療中の者、一般疾病で療養中の者など、一時的労働不能グループが約4,000~2,000人居ると思われる。

その他、働く意思のないいわゆる西成強盗や、常習と博者、などの不良 グループが約1,000人居るとみられている。

[日雇登録労働者]

前述した推定18,000人の地区労働者のうち、失対・港湾・民間登録の517名を除いた残りの殆んどの労働者が、あいりん労働公共職業安定所に求職登録をし、雇用保険日雇労働被保険者手帳を所持している。あいりん労働公共職業安定所が昭和45年に発足して以来、昭和52年3月末迄に交付した手帳は35,626に及び、同有効手帳所持者は、3月末現在で16,717名となっている。当初、公的機関のルートに乗りにくいと云われた地区の労働者が、この様に殆んど登録するに至ったのは、雇用保険手帳を所持することのメリットと、大阪独自の就労申告制の採用等による受給資格取得の簡易化によるものと思われる。

日雇雇用保険手帳所持者は、前2ヶ月に28日以上働いた実績があれば、 仕事にあぶれた時、1日2,700円の日雇求職者給付金(通称アプレ手当) を受け取ることが出来る。昭和51年度中にあいりん職安が支給したアプレ手当の支給総額は、21億3千万円にも達しており、低成長・不況時の 地区労働者の生活の大きな支えとなっていることを示している。約1万6 千人の有効手帳所持者の中、給付を受けるのは月6千~7千人であるが、 求人の落ち込みの底になる1月には1万人にも及ぶ。

さらにこの手帳所持者には、夏・冬の 2 回、福利厚生資金が、支給されている。4 6 年の夏に初めて支給された時は、僅か 1,6 0 0 円で支給人員は 1,6 9 1 人であったのが、5 1 年の冬には、6,6 0 0 円、1 5,9 5 3 人が支給を 5 ける迄になっている。

雇用保険の手帳とあわせて、日雇労働者健康保険手帳を持つ労働者も給付の改善に伴って増えており、地区労働者の療養時における生活の支えとなっている。(別項で詳述。)

〔就労現場〕

地区労働者の就労先は、この地区が日雇労働者の巨大な労働市場として、 大きな役割を果していることもあって、各産業にわたり、広汎な地域へと 及んでいる。

港湾運送業の船内、沿岸荷役、陸上運送業でのトラック運送業、倉庫荷役、建設業では、高速道路、新幹線、地下鉄、上下水道、ガス・電気工事、河川工事などの土木工事から、コンビナート、高層ビル、住宅団地、そして個人住宅の建築に至るまで、製造業その他では、鉄鋼、造船、化学部門を中心に、一般サービス部門にも及んでいる。

作業現場は、現金日雇で、大阪府下を中心に兵庫、京都、奈良、和歌山、 滋賀の近畿一円に及び、期間雇用(飯場)になると、東海、中国、関東地 方から、遠く九州、沖縄、東北地方に至るまで広範囲にわたっている。

[年令層]

労働者の年令層は、筋肉労働にたずさわることが多いだけに、壮年層が多く、あいりん職安に登録した35,626名を年代別にみると、20代が12.7%、30代が37.4%、40代が32.2%、50代が13.3%、60才以上が4.4%となっている。

(8) まとめ

このように、あいりん地区には豊富でエネルギッシュな労働力がプールされており、産業界のその時々の要請に応じて大きな貢献をしてきているのである。ちなみに、この地域の日雇労働者の中、毎日1万人が働いたとして、1日平均の賃金が5,000円とすると、1日で5千万円、1ヶ月で15億円、1年をトータルすれば180億円もの金額になり、これを生み出した価値に直すとこの数倍にもなる。

高度経済成長時代、好況の波にのってあいりん地区に集まった日雇労働

者はその社会的貢献にもかかわらず、生活環境、労働環境はまだまだ劣悪な状態におかれている。ドヤや飯場に、労災事故の多発に、行路病人に、そのことが象徴的に具現されている。

地区労働者の権利意識の自覚や、各行政機関の努力もあって、雇用保険、 日雇健康保険の適用などをみ、この低成長、不況の時代の苦難を乗り切ろう としているが、残された課題はまだまだ多いのが現状と云ってよい。